

大 船 山

上矢作っ子の学びを県内各所へ

校長 細江 幸次

11月1日(水)の終日、本校を会場にして岐阜県小学校理科研究大会が行われました。県内各所より100名余の、主に理科を専門とする先生方をお迎えして、全学年が理科(低学年はプログラミング)の授業を公開しました。これは令和3年度より岐阜県小学校理科研究会の研究指定を受け、3年間の実践研究の成果を公表するものです。

上矢作小学校の研究の取組はコロナ禍が猛威を奮うさなかにスタートし、理科を学ぶ上で学習活動の核ともなる観察・実験などをはじめとする小集団の活動では様々な制約を受けての取組でもありました。しかし、研究実践の始まりとほぼ同時期に1人1台の情報端末の活用が始まったことが幸いして、上矢作小学校独自の学習スタイルが数多く生み出されたと自負しています。研究発表会当日は、上矢作っ子がタブレットで実験の様子を写真・動画を使い分けて記録に残すことを当然のことのように行い、実験画像に自分なりの補助線を書き入れて変化の推移をより明確にしたり、実験結果を簡単な言葉で学級内で一元化された結果表に書き入れることで、自分一人だけでなく学級全体のリアルタイムの事実をもとに考察を考察をすることができたりするようすに、参加者の皆さんは一様に驚かれていたようです。さらに、どの上矢作っ子も考察レベル表を上手に使って、「結論→理由→発展」の順できちんと考察を書き上げていたところにも称賛の声が上がっていました。

まさに3年間の取組の中で、理科の学習だけでなく、学校生活の様々な場面を有効に関連付けて積み重ね、つくりあげた上矢作っ子の学びの姿をたくさんの参観者に披露できたと思います。私たち以上に、上矢作っ子たちの達成感・満足感が高かったようで、参観者のお帰りには多くの上矢作っ子が手を振ってお見送りをしている様子が印象的でした。



1, 2年生 ドローンによるプログラミング



3年生 明かりをつけよう



4年生 物のあたたまり方



5年生 流れる水のはたらき



6年生 電気と私たちの暮らし

Topics

■教育図書を送贈していただきました

10月24日(火)、恵那総合庁舎で行われた財団法人田口福寿会教育図書 贈呈書伝達式に出席してきました。田口福寿会様は毎年、県内の小学校および特別支援学校に対して教育図書の贈呈を行っています。県内90校、東濃地区14校のうちの1校に上矢作小学校が選ばれました。

この度の寄贈に際し、多数の新刊(約31万円相当)が図書館に入りました。新刊が図書室の書架に並べられた日は、子どもたちは目の色を変えて、まるで奪い合うかのように本を借りていきました。SNS全盛のこの時代にあっても、やはり子どもたちにとっては読書が最も身近であり、豊かな情操を育む上で、とても大切な取組だととらえています。特に小学校における読書活動は「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で、欠かすことのできないもの」

(「子供の読書活動優秀実践団体に対する文部科学大臣表彰候補者の推薦について」の趣旨より抜粋)です。通常の本の貸出しをはじめ、学習活動における図書室利用においても有効に活用していきます。

■大容量ポータブル電源をいただきました

公益財団法人 日本教育公務員弘済会様より学校応援キャンペーン「学校賞」として右写真の大容量ポータブル電源とソーラーパネル(約13.5万円相当)をいただきました。学校の教育活動に有効に活用させていただきます。

■感染予防のご協力をお願いします

全国的にインフルエンザが流行しています。上矢作小学校においても研究発表会直前に感染者が急増し、学級閉鎖の措置をとらせていただいた学級もありました。幸い、学級閉鎖以降は感染者が広がることなく、研究発表会を終えることができましたが、予想以上に感染力は強いようです。市内では依然と猛威を奮っている状況です。予防接種の対応も十分に進んでいないこともあり、体調に不調を感じたら早めの休養、医療受診のご協力をお願いします。現在のところ、コロナ対策の経験が十分に生かされ、自主的にマスクの着用等のご協力をいただき、大変ありがたく感じています。

